



ログ ファイル エクスポート

- [ログ ファイル エクスポート \(1 ページ\)](#)
- [リモート サーバへのログ ファイルのエクスポート \(2 ページ\)](#)

ログ ファイル エクスポート

Cisco UCS Manager 実行可能ファイルごとにログ ファイルを生成します。ログ ファイルのサイズは最大 20 MB であり、バックアップを 5 回までサーバに保存できます。ログ ファイル エクスポートでは、ログ ファイルが削除される前に、リモート サーバにエクスポートできます。ログ ファイル名には次の情報が含まれます。

- プロセスの名前
- タイムスタンプ
- ファブリック インターコネクトの名前と ID



(注) ログのエクスポートをイネーブルにしない場合は、バックアップファイルの最大限度に達するたびに、最も古いログ ファイルが削除されます。

注意事項と制約事項

- ログのエクスポートには、`tftp` またはパスワードなしの `scp` か `sftp` を使用することを推奨します。標準 `scp` または `sftp` が使用される場合、ユーザ パスワードは暗号化された形式で設定ファイルに保存されます。
- HA のセットアップでは、各サイドからのログ ファイルが別々にエクスポートされます。1 つのサイドがログのエクスポートに失敗した場合、他のサイドが補償することはありません。

リモート サーバへのログ ファイルのエクスポート

手順

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|---------|--|--|
| ステップ 1 | UCS-A# scope monitoring | モニターリングモードを開始します。 |
| ステップ 2 | UCS-A /monitoring # scope sysdebug | モニターリング システム デバッグ モードを開始します。 |
| ステップ 3 | UCS-A /monitoring/sysdebug # scope log-export-policy | ログ ファイルのエクスポートモードを開始します。 |
| ステップ 4 | UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # set admin-state {disabled enabled} | ログ ファイルのエクスポートが有効かどうか。 |
| ステップ 5 | (任意) UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # set desc description | ログのエクスポートポリシーの説明を入力します。 |
| ステップ 6 | UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # set hostname hostname | リモートサーバのホスト名を指定します。 |
| ステップ 7 | UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # set passwd | Enter キーを押すと、パスワードを入力するように促されます。 リモートサーバーのユーザー名のパスワードを指定します。この手順は、TFTP プロトコルを使用する場合には適用されません。 |
| ステップ 8 | UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # set passwordless-ssh {no yes} | パスワードなしの SSH ログインを有効にします。 |
| ステップ 9 | UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # set proto {scp ftp sftp tftp} | リモートサーバとの通信時に使用するプロトコルを指定します。 |
| ステップ 10 | UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # set path path | ログ ファイルが保存されるリモートサーバのパスを指定します。 |
| ステップ 11 | UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # set user username | システムがリモートサーバーへのログインに使用する必要のあるユーザー名を指定します。この手順は、TFTP プロトコルを使用する場合には適用されません。 |

| | コマンドまたはアクション | 目的 |
|---------|---|-------------------|
| ステップ 12 | UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # commit-buffer | トランザクションをコミットします。 |

例

次に、ログ ファイルのエクスポートを有効にし、リモート サーバのホスト名を指定し、プロトコルを `scp` に設定し、パスワードなしのログインを有効にし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope monitoring
UCS-A /monitoring # scope sysdebug
UCS-A /monitoring/sysdebug # scope log-export-policy
UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy # set admin-state enable
UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy* # set hostname 10.10.1.1
UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy* # set path /
UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy* # set user testuser
UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy* # set proto scp
UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy* # set passwd
password:
UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy* # set passwordless-ssh yes
UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy* # commit-buffer
UCS-A /monitoring/sysdebug/log-export-policy #
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。